視察研修・研修会等報告書

議席番号〔　3　〕議員名〔　大西　尚子　〕

1 年　月　日	令和8年4月20日21日（日数　1泊　2日）
2 場　所	滋賀県大津市唐崎　全国市町村国際文化研究所
3 視察・研修事項	市町村長等・議会議員特別セミナー（2日間コース）
4 面　接　者	① 鹿児島県日置市　永山由高市長 ② 元観光庁長官　公益社団法人大阪観光局　溝畑宏理事長 ③ 京都大学　出口康夫特定教授 ④ 日本大学　危機管理学部　西田亮介教授

5 視察研修、研修会の成果

① 対話と挑戦で切り開く自治体経営～人口５万人以下都市の未来戦略～４２歳で２期目の市長の講義でした。20 年前に平成の大合併（４町合併）市長になられて５年目ということでした。家族ごと毎年、引っ越しされて４町を実際に住まわれたそうです。鹿児島でコミュニティシンクタンクを創業され次の世代が育ってきたこと、コロナ禍で社会の混乱があり、６期２４年にわたる前市長の引退に伴い市長選に出られた経緯を話されました。対話を軸とした市政運営で就任直後から全職員（４７０人）と面談、市内１７６の自治会すべて市長対話会を開催、女性管理職を増やし、若手の市長直轄チームで各種案件推進に取り組まれている話も聞きました。雇用のミスマッチ解消型　企業誘致とできることでは、従来の企業誘致＝工場誘致の考え方を止め、先に経営層を移住させる（個人誘致）で２０２１年から４年半で１１社が日置市に本社を移転した実績があります。経済的インセンティブで戦う余力はないため政策のメッセージ性で勝負をしているそうです。地元にメリットある形で応える。地域を巻き込んだイベントでは自治会、公民館など紹介、イベント後援し防災無線で開催告知をする。全部やる子育て支援に取り組んでいることでは、保育資源の南北問題があり、材料となりデータを揃えて関係者間で危機感を共有する。何となく不安という漫然とした課題間に対して明確な根拠となる数字を共有。若い世代の大幅な流出に対する施策として就職先として選ばれる地域を目指しているそうです。若者、女性の気持ちに火をつける職場を市役所自身が率先して働きやすい職場をめざして試行錯誤している話を聞きました。

② 観光と地方創生・国際観光都市・大阪をめざしてでは、日本の世界における立ち位置と日本が世界に誇れるコンテンツをもとに観光は地域の総合的戦略産業であること。地域独自の資源を掘り起こし、付加価値を加え全国世界に通用するものを作り、その結果地域外から人もの金を集めることにより、地域にとって持続可能な社会をつくる。日本でのＧＤＰにおける観光分野の貢献度は６．９％だが、世界では１０％を超えておりまだ観光に

は伸ばすよちがあるそうです。下呂市の今後も期待できるとワクワクしました。話のほとんどは大阪万博の内容で、溝畑先生は熱く語られました。下呂市愛を持って下呂市が誇れるコンテンツを見出したいと思いました。

③ 実存的ＡＩについて、ＡＩとは何かという技術的・利便性側面だけでなく「価値とは何か」「実在的時間」「人間の尊厳」といった哲学的な内容でした。特に強く印象に残ったのは、「人間的実在と人生物語（創作・実演・改訂）」という考え方です。人間は単に効率的に生きる存在ではなく、時間という「実在のベルトコンベアー」の上で、揺れ動きながらも螺旋状に自身の物語を紡ぎ、その旅を全う（FULFILLMENT）することにこそ尊厳や人生の意味があるのだと学びました。テクノロジーの進化で「反実在的 AI（人間の実在性や時間の重みを削ぎ落とすような技術の使い方）」も生じる中、「実在的 AI」とは、人間の人生物語や尊厳を尊重し、人と人との「WE（共に生きる繋がり）」を育む支援ツールであるべきだと思いました。目まぐるしく変化する現代では、行政や地域社会の課題解決に AI や先端技術を活用していく場面は今後ますます増加しますがその中心には「人間の尊厳」と「多層的な人生の物語」がなければなりません。哲学を学んだ講義でした。

④ 現代の若者論について、日本が直面している人口減少の現状と、これからの社会設計について考える機会になりました。約 1 億 3,000 万人弱の日本の人口が、10 年で約 500 万人も減少しています。今後 50 年～100 年の未来をどのように維持し、繋いでいくかという選択です。「人口減少を受け入れあきらめるのか、移民を受け入れるのか」という問いは、国政だけでなく地方自治体にとっても避けて通れません。情報環境の変化についても、新聞などの紙媒体を購読するのは主に 40 代以上の世代となり、現代のメディアの中心はインターネットへと移行しています。若い世代の情報収集や価値観の形成プロセスも大きく変化しています。投票率の低下があり、これからの時代を担う若者たちが自分たちの未来に関心を持ち、主体的に社会に参加していく環境づくりが不可欠です。そのために「学校における政治教育の充実」が必要不可欠であるという考えには共感しました。単に選挙の仕組みを教えるだけでなく、地域の課題や未来の選択肢について自ら考え、議論する主権者教育が求められていると思いました。若い世代の声や感覚をいかに地域づくりや市政に反映させていくかは重要な課題です。若者が未来に希望を持てるような政治参加の機会創出や教育支援、そして持続可能な地域社会の構築に尽力したいと思いました。

今回の特別セミナーでは多様な先生方の講義でした。幅広く持続可能な下呂市を考えていく充実した時間になりました。参加させて頂きありがとうございました。

※ 年月日は、支出事実のあった年月日を記載する。

※ 内容欄には、政務活動が特定できるよう、年月日、場所、活動内容などが明確になるよう記載する。